

中国の大学における日本語教育の一側面

～湖南省・雲南省における非専攻日本語学習者 および教師へのインタビュー調査から～

案 野 香 子・谷 部 弘 子

【要 旨】

本調査は、中国湖南省および雲南省の複数大学における非専攻日本語学習者および教師へのインタビューを行うことによって、中国の特に内陸部の日本語教育の一側面を明らかにしようと試みたものである。

その結果、雲南省では日本語教育に関する最新の情報・教材が不足していること、また、学生の側では、限られた環境を最大限有効に生かしている者とそうではない者の差が、実際の日本語力に大いに反映されていることがわかった。

今後は、これらの調査結果から見受けられたニーズを踏まえて、教材開発を行わなければならないと考えられる。

1. はじめに

国際交流基金の調査によれば、2006年時の中国の日本語学習者数は約68万人、うち高等教育機関における学習者が約40万人を占める。大学における日本語学習者のうち、学習時間数の多さや日本語能力の高さに注目すれば、日本語以外の分野を専攻としながら第二外国語として日本語を学ぶ「非専攻日本語学習者」が主体である。日本語専攻以外で日本語を学ぶ学生は、大きく二つに分けられる。必修の第1外国語として日本語を履修する者と、選択科目の第2外国語として日本語を学ぶ者である。前者は、原則として中等教育で日本語を学習した者が継続して履修し、教学大綱（シラバス）で定められた4級試験の合格が学位取得の条件となっている。後者は、第1外国語として英語を履修する者が主体である。非専攻日本語学習者の中には、学部レベルの学生のほか、選択科目として日本語を学ぶ大学院生も数としては多くないが存在する。

日本語専攻科のカリキュラムや学習者に関しては、すでにかなり多くの報告があるが、非専攻日本語学習者に対する教育の実態や学習者像についてはまだそれほど多くない。

今回は、情報量の豊富な沿岸部ではなく、湖南省・雲南省といったいわゆる中国内陸部において行った調査をもとに、非専攻日本語学習者に対する日本語教育の一端を報告する。

2. 日本語教育における湖南省・雲南省の位置づけ

湖南省は中国のほぼ中央に位置しており、広さとしては全国国土面積の2.2%を占める。これは各省・直轄市の土地面積の中で10位にあたる。

【表1】は、湖南省・雲南省の高等教育における日本語教育概況を示したものである。湖南省の高等教育機関における日本語学習者は、日本語教育が行われている31省・直轄市

合計の約5%を占め、第8位に位置する。機関数、学習者いずれも平均を上回る位置にあるといえる。

一方、雲南省は中国の南に位置し、25の少数民族を擁する。土地面積では国土の4.1%を占め、湖南省を上回るが、省人口の約4分の1が貧困人口と言われる地域である。高等教育機関における日本語学習者数も3,705名（2006年）と、全体の1%弱にとどまる。日本語教育の規模としては「後進地域」と言えるだろう。

【表1】 湖南省・雲南省の高等教育における日本語教育概況
（国際交流基金2006年調査）

	機関数 (%)	教師数 (%)	学習者数 (%)	学習者数 順位	人口 (万人)	面積 (万km ²) (%)
湖南省	32 (3.6)	245 (3.4)	19,942 (4.9)	8/31	6,768.1 (7位)	21.18 (2.2)
雲南省	14 (1.6)	51 (0.7)	3,705 (0.9)	25/31	4,483 (12位)	39.4 (4.1)
31省市計	882 (100)	7,217 (100)	407,603 (100)			

3. 南省・機関別状況

3. 1 概観

国際交流基金2006調査によれば、湖南省で日本語教育を行っている高等教育機関は31機関あり、うち4機関は民間（私立）の機関である。調査当時の学生数が最も多いのは私立の湖南涉外経済学院であり、教師数15名に対し学生数は2000名と報告されている。今回、調査に応じていただいたのは、湖南大学、長沙大学、湖南女子大学の3校である。

【表2】 湖南省・3高等教育機関における日本語教育概況
（国際交流基金2006調査および2009調査）

		湖南大学	長沙大学	湖南女子大学
2006JF調査		外国語学院 日語系	外語系日語 教研室	外語系応用 日語教室
	教師数 (母語話者)	25 (1)	20 (5)	8 (1)
	学生数	787	1000	680
2009調査 (二外)				
	教師数 (母語話者)	25 (3)	15 (2) (非常勤1)	
	学習者数 (二外)	580以上	約450 (15c)	370 (7c)
	クラス	30	37名前後×16	
	学習者の主な専攻	英語科+他学部 100程度	英語科	

	学習時間（週当たり）	4 節/W×20W	4 節/W×1 年半	4 節/W×1 年半
			3 単位	
	到達目標	1 年半で 3 級レベル		
	教科書	『大学日語』 四川大学出版社	『初級総合教程』 高等教育出版社	
2009調査（専攻）				
	学生数	30名	30名	—
	教科書	『新編日語』	『新編日語』	

3. 2 湖南大学

湖南省で日本語教育を行っている高等教育機関は、湖南大学を含め13機関ある。うち、湖南大学は、国家教育部直属の全国重点大学、国家重点投資建設の「211工程」「985工程」の学校の一つである。現在30の学院、61の本科専攻、171の修士課程、12の博士学位を授与できる一級学科、69の博士学位を授与できる二級学科、15の博士後期課程を設ける。全日制学生約三万人が在籍する。

湖南大学外国語学院日本語学部（日語系）は、10学部あるうちのひとつで、1992年に設立され、現在約800名の在校生がいる。

非専攻（二外）での日本語は大変人気が高く、また学期末までの離脱者が少ないというのが特徴である。日本語学部の李姐莉教授主編のマルチメディア教材『初級日本語総合教程（CD-ROM付き）』を使用し、複数教室に集まる多数の学習者に対し、一つの教室から教師がオンラインで授業を一度に発信する方法をとっている。CD-ROMによって、音声や動画などを見せられることで、学習者の好評を得ている。

3. 3 長沙大学

長沙大学は、長沙市立の大学で、10学部、2教養部、4研究所から成り立ち、全日制的在校生11,000人、成人教育学生2,000人が在籍している。

長沙大学外国語学院は、英語系と日語系からなる。日本語学科は1988年に設立、2007年より日本語学科が教育部の「特色專業」と認められ、12万円の経費がおりたことによって学内に和室を設けた。また、各教室にテレビがあり、モニター、プロジェクター付きの教室も7つある。

非専攻（二外）では、特に具体的な目標は立てていないが、学生の学習目的としては就職や大学院進学があり、その他、アニメや漫画に興味があるもの、単位をとればそれでいいというものもある。教材は、長く『標準日語』を使用していたが、2005年以降は『初級総合教程』を使用している。専攻科の日本語教育と異なり、非専攻（二外）では、深く具体的に教えることはしていない。助詞「は」を例にとれば、提題助詞としての機能の意味の説明はしていない。中国語での説明が多いため、日本人教師が二外で教えることはな

い。

1クラスの人数が多いため、運用の練習が少ない。文法は分かるが話せないという学生が多い。発表や文章を一人ずつ読ませたり、グループに分かれてロールプレイをさせたりして、できるだけ話させるようにしているが、コミュニケーションができるような活動をもっと多くした方がよい、と考えている。

3. 4 湖南女子大学

1985年創立の女子大学で、学生数は約5,000名。日本語は、外語学院日本語科だけでなく観光科でも教えている。

4. 雲南省・機関別状況

国際交流基金2006調査によれば、雲南省で日本語教育を行っている高等教育機関は14機関あり、うち11機関は省都の昆明市にある。調査当時、教師数、学生数がもっとも多いのは雲南農業大学（9（0）/1000）であった。今回、調査に応じていただいたのは、雲南師範大学、雲南大学、雲南民族大学の3校である。

【表3】雲南省・3高等教育機関における日本語教育概況
(国際交流基金2006調査および2009調査)

		雲南師範大学	雲南大学	雲南民族大学
2006JF調査				
	教師数 (母語話者)	8(2)/3(0)* /3(1)**	7(1)	3(0)
	学生数	490/200*/ 422**	163	100
	備考	*雲南師範大学商 学院/**雲南師 範大学文理学院	附属外語学校 (教師1/学生40)	
2009調査(二外)				
	教師数 (母語話者)	8名(0)	8名(0)	4~5名(0)
	学習者数(二外)	約200名	80~100名	約200名
	クラス	30名×6	40名×2	30名×8
	学習者の主な専攻	英語科+他学部 100程度	英語科	全員英語科
	学習時間(週当たり)	4節/W×20W	4節/W×1年半	4節/W×1年半
			3単位	

	到達目標	1年半で3級レベル	1年半で3級レベル	1年半で3級レベル
	教科書	『大学日語』 四川大学出版社	『標準日本語 (新版)』人民教育出版社	『標準日本語』 人民教育出版社
2009調査(専攻)				
	学生数	30名	30名	—
	教科書	『新編日語』	『新編日語』	

4. 2 雲南師範大学

雲南師範大学・外国語学院は、英語系と日本語系があり、英語系は「教育」と「旅游」、日本語系は「旅游」(観光)を中心に行なっている。3、4年時で雲南省の「导游」(ガイド)の資格がとれるように設計している。

非専攻(二外)の外国語としては、日本語のほかフランス語、ロシア語、ベトナム語が用意されている。日本語は、英語履修者300名中200名くらいが選択するが、ロシア語の選択者は非常に少ない。2009年からは、受講者が15名に満たない場合は開講しないことになった。ベトナム語は地理的、歴史的な要因から古くから開設されている。修士進学のためには、第二外国語の履修が必要である。学部3年時に二外の実験に関し、各言語の担当教師がオリエンテーションを行なっている。

非専攻(二外)の日本語教育では、1年半で日本語能力試験3級レベルを目指しているが、単位のための学生が多いことから、リスニングなどはあまり行なっていない。週4コマの授業は、1冊の教科書で順番に行なっている。教科書は、以前は『標準日本語』(人民教育出版社)を使用していたが、情報が古く、また、動詞の分類に問題があることなどから『大学日語』(四川大学出版社)に変更した。

非専攻(二外)の日本語クラスは、中国人教師が担当する。非専攻(二外)の場合、中国語で説明することが多いため、日本人教師には担当できない。入門期は90%以上中国語で教授している。中国人教師の週当たり担当コマ数は14~15(1コマ45分)コマで、その約半分は専攻科の授業である。

4. 3 雲南大学

英語科の約60%(80~100名)が日本語を選択する。理科系の学生も数名いる。

教材は、90年代はじめから『標準日本語』(人民教育出版社)を採用し、今は『新版』を使用している。1年半で日本語能力試験3級レベルを目標としている。3、4名は2級に合格する者もいる。非専攻(二外)は授業時数が少なく、多くは単位のために履修しているため、なかなか上達しない。英語と対照して説明するとわかりやすい。教師によっては、多媒体教室で既成の視聴覚教材を使用したりしている。課外活動としては、「対外漢語センター」に多いときで5、60名の日本人留学生がいることから、留学生との交流を行なっている。クラスでもコミュニケーションができるような授業をこころがけている。こ

の他、「日本文化」の講座も設けている。

教師は、現在中国人教師が8名、日本人教師が1名（60代）いる。中国人教師はいずれも留学経験があり、修士学位を有しているが、今年からは博士学位がないと採用できない（これまで日本語とフランス語のみ特別に修士修了でも認められていた）。日本人教師は教育経験を重視して採用している。非専攻（二外）は、若手の教師が教授経験をつけるために2年位担当する。

4. 4 雲南民族大学

非専攻（二外）の日本語クラスは、英語科の学生200名全員が履修している。前年度はフランス語と半々であったが、今年度はフランス語担当教師が留学中のため、フランス語の履修ができない。学生は漢族よりも少数民族のほうが多い。

教材は、『標準日本語』（人民教育出版社）を使用し、1年半で日本語能力試験4級レベルを目標としている。『標準日本語』は文法説明や会話など使いやすい。説明はほとんど中国語で行なっている。教え方の工夫としては、文法項目を教えるときにパワーポイントを利用したり、日本のアニメやドラマ（「東京ラブストーリー」など）をインターネットを介して入手し見せたりすることもある。

非専攻（二外）の学習者が日本人と話す機会はほとんどなく、課外で日本語と接触する機会も少ないと考える。今後は学生が日本人と交流できるチャンスがほしい。

5. 学生のインタビューから

5. 1 インタビュー方法

谷部、案野をインタビュアーとする二つのグループに分かれ、学習者一人当たり10～15分の所要時間でインタビューを行った。インタビュアーが日本語で質問し、学習者は中国語で回答した。通訳は日本語専攻の大学院生が担当した。インタビューは学生ので承を得て、録音した。

5. 2 湖南大学

女子3名 男子4名

年齢 20～25歳

所属・生物技術 3年生（2名）・外国語学院 英語学部（2）・影視学院 3年

・外語学院／英語科／大学院1年（2）

日本語学習歴

・半年 今もときどき『初級日本語総合教程』を利用して自分で勉強する

・3年（2）・はじめたばかり（2）・2年（2）

週当たり学習時間

・1週間で1～2時間 忙しくて時間がない・今は授業がないから勉強していない。

（2）

・授業があるときは一週間に4コマ・大学院生は週2コマ

学習動機

- ・将来外資系企業で働きたい。いろいろな人と働きたい
- ・日本語の文化、日本に興味がある。日本のことを学びたい 外国のことを学びたい
- ・日本交流 日本のアニメを見たい。・新聞や雑誌が読めるようになりたい。
- ・日本語には漢字があって勉強しやすいと思った（が、それほどでもない）。これからも続けたい。博士進学や就職にも役立つので続けたい。・アニメへの興味から。
- ・日本の文化に興味があった。学ぶべきは勤勉さ、まじめで仕事熱心。

到達目標

- ・日本人と交流できるぐらい。・4級か3級のレベルまでいきたい（2）
- ・日本の会社で働けるぐらい（2）・新聞や雑誌が読めるようになりたい。
 - ・JLPT 2級。まだ受験したことはない。・旅行したとき、日本人とコミュニケーションできる程度。・日常の交流ができる程度。専門の研究は英語でできる。

日本のイメージ

- ・桜がきれい、アニメが面白い 神社、富士山、生活リズムが速い。
- ・日本の都市と農村は大きな違いがないと思う。どこを見てもきれいだと思う。まるで花園のようだ 環境がいい 農村もきれいだと思う。
- ・桜 日本鍋 日本の南北の気温の違いが大きい。
- ・藤子不二雄。礼儀正しい、まじめ、精密・繊細。戦争や歴史。礼儀正しすぎる→本音を読めない。新聞報道やインターネットの在日中国人のブログから。
- ・清秀 秀丽 发达 全体にいい印象を持っている。歴史的なことや釣魚島の問題などマイナス面もあるが、交流を続けることで解決できると思う。（反日的なブログも目にする可能性があるか）見たことはないが、不満など聞いたことはある。
- ・美しい、次世代への期待が高い、伝統を守りながらも外国のものを吸収している。（とくにマイナスイメージはないかと問われて）2003年のとき、反中国的な原論があり、それに対して大学生も日本に非常に反感を持ったり日本製品を買わないなどした時期はある。自分自身は中立的な立場。それまでは、ドラマや映画、ファッションなどに眼が向いていたが、日本語学習後は、日本の伝統文化に対する理解が深まった（自然に対する畏敬の念）。
- ・日本人の中国や中国人に対する印象はよくない。そのような文章や講座を聞いたことがある。歴史上から見てもお互いに好感を持っていない。（具体的な体験があるか→）浙江大学の著名な教授（日本留学経験者）の「中国人は何を学ぶべきか」という講演を聞いた。日本人の勤勉さなど学ぶべき点にも言及したが、一方で、日本政府の中国に対するよくない見方も紹介した。

日本語のイメージ

- ・文法は比較的容易。話すのは難しい。漢字は繁体字を書くのが難しい。しかし好き
- ・他の欧米語より親しみを持っている。
- ・中国語と関係があるので漢字は読み方も似ている。日本語の語彙、文法、コミュニケーションの仕方は複雑だと思う。・TOYOTAやHONDAなど親近感があった。視野が広がる。

- ・文法事項が多くて面倒。細かい規則が多い。

日本人の知り合い

- ・いない(4)・日本語の先生

日本人と話した経験

- ・ない(4)・日本語の先生・日本人留学生と話した。
- ・ある。湖南師範大学の年配の日本人教師と「英語コーナー」で。

学習に役立つもの・こと

- ・一番いいのが教師について教わること・日本のアニメ(名探偵コナンなど)を見る
- ・テレビや映画、アニメを見る 見た後に短い日本語を使って話してみる。多聴多読。
- ・留学。字幕付きの映画。国際ニュース。
- ・ない。英語であれば、『China Daily』などどこでも買えるが、日本語の新聞などは買えない。英語であれば、スピードが遅い非母語話者用のラジオ番組がある。
- ・ドラマやアニメは役立つ。勉強しているのは「敬体」だが、日常生活はみな「簡体」。わからないところは推測したり、字幕を見たりする。コンピュータ・ゲーム。男性は好き。女性は、やはりドラマや歌が好き。小野リサ、キンキキッズ、ウインズ。
- ・日本語コーナー

日本語を聞く機会

- ・CD-ROMを聞く。(3)・日本のドラマを見る。・映画(リング)。・今は少ない。
- ・「接触」は非常に少ない。アニメなどの日本文化は最近目立ってきて、多くの人々に受け入れられている。しかし、自分はアニメにも興味はない。

日本語を話す機会

- ・日本語を勉強している友達に会った時。・日本語の先生と話す。・ない。・簡単な挨拶程度。

日本語を読む機会

- ・教科書を読む(2)・雑誌を漢字を頼りに読んでみた。
- ・教科書以外は、広告、電気製品の説明書など。
- ・インターネットのニュースなど日本語で見たことはない。日本に関するニュースは機会があれば見ている。

日本語を書く機会

- ・宿題で1ページぐらいの作文を書いた。・ない。・大学に入ったとき、友達に短い手紙を書いただけ。

学習方法

- ・CD-ROMをパソコンで聞く。・暗唱する(2)・朗読する(2)
- ・文法が難しいのでやはり文法の勉強。朗読を続けることは役立つ。
- ・聴解が難しい。ドラマやアニメで耳にする日本語とJLPTの聴解などとは違う。

楽しいとき／うれしいとき

- ・すらすら話せたとき。
- ・文法書などで覚えた文章が映画などででてきたときや、それを使って交流できたとき
- ・教科書の本文を読むこと(朗読)は「開心」。先生について読むと上手になったよう

な気がする。

- ・日本語学習は楽しい。日本文化、音楽、映画、マンガ（スラムダンク）、アニメ（宮崎駿、ドラえもん）、テレビドラマ（ラストフレンズ、イノセント・ラブなど）とても好き。
- ・やさしいところ。歴史もなったことがあるし、文字もわかりやすいし。

やめたいとき

- ・ない（2）・ある（3）・進歩がみられないとき。・はじめは簡単だったがだんだん難しくなる。
- ・日本語に触れることが少ない。勉強する時間が足りない。専門は生物なので、アメリカか日本に行きたい。今はアメリカ留学を考えているが、日本も選択肢の一つ。

学習継続のための対処法

- ・日本人と日本語で話してみる。
- ・試験のために仕方ないから続ける。続けて知識を得れば、また意欲が出てくる。文法の混乱が原因になっているので、前にならったことを見直す。
- ・大学院の必修だから仕方ない。わかればおもしろい。

他の外国語学習との違い

- ・英語と日本語で勉強のしかたは、同じではない、日本語は中国語と基本的に同じ語系だが、話し言葉とか敬語とか勉強するとき、訂正すべきところがたくさんある。日本語より難しい。日本語は中国語にちょっと似ている、文字の発音も似ている。易しい
- ・英語は単語は表音文字、中国語もピンインを使うから少し似ている。読めるし書ける。しかし、日本語は色いろな文字を使うから難しい。
- ・日本語は、漢字からひらがな、カタカナができたように、文化的な共通点が多い。英語にはそのような共通点がない。
- ・英語より難しい。英・中は文法は似ている。日本語は言語の系統が違う。

その他

- ・中国人の先生に教わりたい。中国人の先生は中国人学生の特性をよく知っているから。

5. 2 湖南女子大学

性別 女子7名

年齢 いずれも20歳

所属 英語学部（5）・旅行社経営管理（2）

日本語学習歴

- ・1年（2）・半年・1学期（1）

週当たり学習時間

- ・4時間（=4コマ）

学習動機

- ・日本のことを知りたい、日本と中国は関係があるから、もっと日本のことを知りたい。
- ・日本が好き たえば日本人の生活様式、淡水資源（魚）に興味がある 刺身 川に興味がある 日本は美しい国です。

- ・日本は美しい国。ぜひ一度日本に旅行したい。機会があれば中日合弁会社に勤めたい
- ・最初は日本のアニメが好きだったから。それから、日本人の勤勉な仕事ぶりとか「精神」とかを知りたいと思った。
- ・中等専門学校で英語以外に第二外国語として少し勉強した。日本語以外に選択肢はなかった。日本語は最初はやさしいが、だんだん難しくなる（と先生も言っていた）。
- ・日本語は勉強しやすいと思ったことと、日本に興味があったこと。

到達目標

- ・日本へ留学したい。・日本語能力試験2級レベルまで（4）・日本語能力試験の3級それから2級レベルにまでなると会社に勤めたい。・日本人と話したり、ドラマやアニメを見てわかるように。

日本のイメージ

- ・美しい国 桜が美しい 悪いイメージは もちろんもっている。それは歴史の問題で今は日本と中国の関係は交流が盛んで、それは問題とはいえない。
- ・インターネットとテレビで日本を知った。日本は美しい国、桜とか。日本人の団体意識 経済発展が速いことに興味をもっている。
- ・ちょっと複雑。歴史的なことから（一般に）日本のイメージがとてもいいとは言えない。でも、やはりいい国だと思っている。あれほど経済発展したのには日本自身にその要因があるはず。長寿国。もっと深く知りたいと思っている。よくない面：発達しすぎている
- ・日本にとっても行きたい。美しい風景、経済大国、給与も物価も高い。風俗習慣の違いなどあり、日本に行って仕事をするにはまだ考えていない。
- ・自分が持っている日本のイメージは映画やドラマから得たもの。さくら、温泉が多い、日本人は刺身を食べる、仕事熱心、寿司が好き。
- ・日本人は礼儀正しい。日本はとてもきれい（さくら）で、文化的。風俗習慣もいい。とても穏やか（温和）で安全。テレビからそのようなイメージを得る。お辞儀や挨拶、日本人の性格、女性の態度など。（欧米の映画やドラマから得られる印象との違いは？→）「西方人」は開放的なのに対して、東方人（中国、日本、韓国）は保守的。文化も異なる。

日本語のイメージ

- ・発音がきれい
- ・日本語を最初勉強するときは英語より簡単だと思った。単語は漢字が多いから、暗記しやすい。文法の方は難しい。
- ・日本はきれいなところです。日本人は賢い すし さしみ 日本料理 やっぱ歴史の問題 でも今のイメージは段々変ってきた、日本もそんなに嫌な国とは言えない。
- ・発音がきれいだが真似しにくい。文法は難しい。

日本人の知り合い

- ・いない（5）

日本人と話した経験

- ・ない（5）・日本人の先生と話したことがあるが、あいさつくらいで、あとは中国語

で。

学習に役立つもの／こと

- ・コンピュータ。ドラマを見るため 今使っているテキストはCDがついている、それを使えばもっといいと思う。またラジオで日本の放送が聞ける。
- ・日本の文化についての本を読むこと。日本語のドラマを見るのは役にたつ。
- ・日本語の映画を見たり、日本の文化についての本を読んだり。一番大事なのは教科書
- ・ドラマ（字幕付き。日本のドラマはだいたい11回くらいなので、1週間くらいでおわる）。
- ・MP3、歌、ドラマ、映画。

日本語を聞く機会

- ・ドラマとかラジオ、テキストのCD 授業では先生は日本語を話す
- ・授業のとき先生がいろいろな放送を使って学生に聞かせる
- ・授業のとき、先生は放送を流して聞かせる。日本の映画を見たり、放送を聞いたり、また、意識的に日常会話の単語を覚える。
- ・日本人が話すのを聞いたことはないが、日本のHPを開いてみたり、掲示板に書き込んだりしたことはある。とても簡単な日本語で。
- ・ドラマは2回見たことがある。一つは「1リットルの涙」。中国語字幕付き。歌（さくら、キロロの歌）。映画は「コナン」を見たことがある。
- ・ドラマ（「日劇」）を見たり、アニメを見たりする。子どもの頃は吹き替えのものを見ていたが、今は日本語の発音を聞こうとしている。MP3に日本の歌をダウンロードしたりもしている。
- ・ドラマやアニメ。

日本語を話す機会

- ・授業で会話の練習をする。・クラスメイトとお互いにテキストを練習する。
- ・授業のとき先生はクラスメイトをお互いに会話の練習をさせる。授業のあと、お互いに練習するときもある。・簡単な挨拶は日本語でしている。
- ・高校の友達が日本語を勉強しているので、教えてもらったり、話したりする。

日本語を読む機会

- ・テキストに読解練習がある、先生がほかのところから資料を集めてきてみんなに配る。
- ・テキストに読解の文章がある。ときどき図書館に行って他のテキストを借りてくる。
- ・図書館へ行って本を借りてきたり、友達から本をもらったりする。授業のとき先生はテキストの読解練習を詳しく説明して下さる。
- ・雑誌や新聞など読んだことはない。見てもわからない。インターネットは、日本の風景などは見る。中国語の頁で日本概況や風俗、社会について見たことがある。
- ・ない。知っている単語に限られているので、見てもわからない。日本語の本、図書館にはある。
- ・まだ勉強をはじめたばかりなので、教科書以外は見てもよくわからない。近くの店に日本語で書かれた食品や包装品がある。

日本語を書く機会

- ・作文とか文法練習とか宿題をやる(3)

学習方法

- ・授業前にテキストを予習する。また授業の前に単語を勉強して、会話を友達を誘って一緒に練習する。特に口頭練習が一番必要。
- ・単語を覚えたり文法を勉強したり、ドラマを見ること。
- ・単語を紙に何遍も書く。勉強する予定の文章を中国語に訳し、また日本語を一度書く
- ・「二外」の学習者はみな五十音図を覚えるのが難しいと言うが、丸暗記するのではなく単語と合わせて少しずつ覚えれば、それほど大変なことではない。
- ・単語の暗記、朗読、あいさつなど簡単なことは日本語で言うようにしている。
- ・単語の暗記。よく歌やドラマを聞いて、聞いた単語と自分が覚えている単語を照合する。
- ・会話(対話)、暗記、朗読、ドラマや歌

楽しいとき／うれしいとき

- ・会話の練習のとき。
- ・授業のとき先生が聴解の放送を流して聞き取れたときが一番楽しい。
- ・難しい文をやっと理解できたときはうれしい。日常会話を勉強して、あるときドラマからそれが聞こえて、自分でそれがわかったときはうれしい。
- ・タン先生と話すとき(開心)。好きな先生の授業は一生懸命にやるタイプ。日本語は自分で選んだが、父にも勧められた。だんだん日本語がわかるようになってうれしい。
- ・とてもおもしろい。高校時代(中専)も少し勉強したことがある。予習をしたり授業中先生の話をよく聞き、復習したりしている。今、「自学孝試」があるので、独学もしているが、だんだん難しくなってきた。一つの本文に30~40の単語が出てきたりするので、なかなか覚えられない。
- ・日常生活で簡単な日本語(単語)がわかったり言えたりしたとき。
- ・おもしろい。発音がきれい。ドラマやアニメも見ている。アニメはたくさん見ている(美少女戦士、ドラゴンボール、コナンなど)。小学校の頃から見ている(中国語)。今は字幕つきのもの。

やめたいとき

- ・日本語の単語が多すぎて全部覚えるのは難しい
- ・自分の専門は日本語ではないから、自分の専門でやるのがたまって暇がないときはちょっと日本語を辞めたいと思う。単語が長くて暗記しにくいとき辞めたいと思う
- ・単語が長くて、どうしても覚えられないとき、文法が理解できないとき
- ・ない(4)

学習継続のための対処法

- ・勉強すればするほど、ドラマについてもっと理解できる

他の外国語学習との違い

- ・だいたい同じ。違うところは、日本語のほうは時制が英語より簡単だと思う
- ・発音は英語より日本語の方が難しい。細かい文法は似ているところは多いから却って

理解しにくい

- ・英語は小学校から学んでいるので、自分にとってやりやすい。小さい頃に触れたものは受入れやすい。記憶力もある。日本語は大きくなってから始めたので、困難な面がある。だから、習い始めは、英語のほうがやさしかったと思う。しかし、(大人になってからのほうが)理解力は強いので、他の知識から補え、理解が早い。
- ・英語はローマ字だが、日本語は漢字がある。五十音図とアルファベット。
- ・英語はもう10年勉強しているので、英語のほうが勉強しやすい。

その他

- ・日本人と話す機会が多ければいいと思う
- ・どういう風に日本語を勉強したらいいか、という悩みがある
- ・「外教(ワイジャオ)」の日本人の先生がいるが、日本語専攻の授業担当で、自分たちは教わっていない。

5.3 雲南師範大学

性別 女(6) 男(2)

年齢 20~23歳

所属 英語学科(6)

日本語学習歴 ・1年 ・1学期(2) 半年(5)

週当たり学習時間 1週間2回 4時間

学習動機

- ・日本はきれいだし、日本語もおもしろいし 日本語を身につけたらいつか日本にいけるかもしれない。
- ・学校で必修科目だから。日本文化にも興味ある。たとえば文学 川端康成 雪国 伊豆の踊子 を読んだ。好きです
- ・日本の映画やアニメをよく見ていたから、その中で日本語はきれいだと思った。宮崎駿のアニメが好き。
- ・日本語が好きだから アニメ、マンガに接しているから。
- ・いとこ(本科英語専攻)が日本語を学んでおり、歌などをおしえてもらった。
- ・大学入試の際、日本語科志望。四川の日系企業に勤めている知人がいて、給与も高い、とのこと。四川出身。
- ・日本の文化に興味がある。唐代からの交流。文字も日本語には漢字の他ひらがなやカタカナがあるなど。
- ・フランス語か日本語かどちらかを選択するのに、あまりこだわりがなかった。寮の友人も日本語をとった人が多かったので。後悔はしていない。

到達目標

- ・能力試験4級・考えたことがない・レベルが高くなればなるほどいい。1級もためしにやってみたい・1級目指す。通訳をやりたい。・日本人と日常会話ができるようになりたい。
- ・(通訳の)あなたと同じくらい。大学院進学を考えていて、進学後も二外が必要な

で、続けたい。

- JLPT3級に受験したい。何人くらい受かっているかは知らない。日本語専攻の3年生が1級に受かった人は知っている。
- (通訳をしてくれた) 彼と同じくらいになりたい。大学院入試、JLPT受験、将来的に役立つ

日本のイメージ

- 景色がきれい 富士山とか。経済が発展している。こちらが学べるところも多い。悪いイメージはちょっとある 抗日戦争のことは忘れていない。
- きれいです 清潔 海に囲まれている。
- 豊かな国 日本の女性はよく働いている、礼儀正しい国。
- 礼儀正しい 優しい感じがする。悪いイメージは こちらに来ている若い留学生が中国人と話すときの態度があまりよくないというイメージがある
- 日本語学習以前も、多少は知っていた。中日の貿易やビジネスが盛んであること、日本製品、武士道精神文化(一般選択科目の「日本概況」で聞いた)など。受講者は多かった。

学習以後は、もっと多くのことを知った：マナーや人に対する心遣いなど。武士道関係の本(中文)や授業中の先生のお話から知った。

- 日本語学習以前は、歴史やテレビなどの情報(抗日戦争、観光、食関連の番組など)から、マイナス面の印象のほうが強かった。学習以後はプラスのイメージがある。もっと友好的な対応をしたいと考えている。日本の文化や言葉を学びたいと考えているので、感情的なこと(歴史?)は考えていない。
- 2年生のとき「公選科」の「日本社会文化語言」の授業を受けて、深くではないが日本のことを知り日本文化に関心を持ったが、日本人にはあまりいい印象を持っていなかった。もちろん、非常に礼儀正しいとか、団体意識、またサクラや自然の美しい日本に行ってみたい気持ちもある。(よくないイメージというのは)よく言われる軍国主義などの面で。どこもマイナス面は免れないが、全体的はよい印象を持っている。
- 日本語学習前は表面的な認識だったが、学習後は、言語は文化の一部分なので、先生もいろいろな方面のことを教えてくれるし、自分も好きな文学作品(中国語訳の源氏物語、平家物語、エッセイ)を読んだりして、とてもよいと思っている。
- 日本語学習以前も興味があった。アニメ作品(宮崎作品、クレヨンしんちゃん、ドラえもんなど)よく見ていた。風景、茶道も知っていた。

学習後は、先生が教えてくれる会話から、「敬体」や敬語の使い方が印象深い。

日本イメージ：発展する経済

日本語のイメージ

- 発音がきれい 英語よりきれいだと思う。
- 少ししか習っていないから 日本語の助詞の使い方はややこしい 語順も中国語とは全然違う 難しいというイメージがある
- 難しいと思う(2)・敬語がある。・はじめはやさしいと思ったが、だんだん難しくなる。

日本人の知り合い

- ・いない(4)・一人は留学に来ている人で、ひとは永住している人

日本人と話した経験

- ・ない(2)・この学校で教えている日本人の先生と
- ・新入生歓迎パーティーのとき1回だけ話したことがある。

学習に役立つもの・こと

- ・環境がとても重要 日本人の学生と交流できればいいと思う。テキストの暗記。
- ・辞書 映画・先生について勉強すること。
- ・JLPT 3、4級の問題集を通して文法の勉強をしている。教科書以外に『標準日本語』も買った。文法説明はいい。
- ・字幕付きのアニメは役立つ。自分の記憶を刺激してくれる。歌はよく聞いている。わからなくてもたくさん見たり聞いたりしていればつかめるものがある。語学習で、語感がかめるように映画やテレビ、DVDなどをよく見る、それを日本語にも生かせると思う。

日本語を聞く機会

- ・テープ、復読機 テレビを見る 中国のドラマの中の日本人の日本語を聞く。
- ・日本語学科の学生同士が日本語で話しているのを聞くことはある。
- ・映画 歌を聞いたり。
- ・アニメ、映画などか テキストの聴解練習 日本語学科の学生と交流するときも聞く練習になる ちょっとだけわかる。
- ・教材のMP3、映画DVDを大学1年のとき見たことがある(犬夜叉)。歌(さくら)
- ・歌(インターネットでダウンロード)。歌詞が見つからないと、わからない。ドラマはあまり見ない。

日本語を話す機会

- ・中国人の友達と日本語で話す機会がある「おはようございます」など
- ・授業中だけ 先生の質問に答える あいさつとか
- ・授業のときは話す・日本語学科の学生と話したり、日本人とはなしたりする。
- ・コミュニケーションは少ない。新入生歓迎パーティーのとき1回だけ話したことがある。

日本語を読む機会

- ・テキスト、単語。雑誌は見たことがない見てみたい。
- ・テキストを読む(3)
- ・授業のとき・図書館の本に目を通したりする。
- ・日本のエッセーなどは本屋で目にする。具体的には覚えていない。対訳式のもの。知っている単語があれば、おもしろい。

日本語を書く機会

- ・宿題で作文をする・ない。

学習方法

- ・授業中先生の話をよく聞いたり授業のあと自分で練習したり、わからないところがあっ

たらメモをとっておいて、よく練習するようにしている。

- ・授業中、先生について勉強するだけ。
- ・翻訳の練習が多い 中国語から日本語に訳すことが多い。日本語から中国語に訳すのは簡単だと思う。
- ・やはり暗唱することが大切、たくさん聞いてたくさん読む。その国の文化についても調べたらいいと思う。・本文の暗記することが一番いい。本文を暗記すれば、単語の単純な意味だけではなく、使い方もわかる。
- ・単語や本文の暗記。授業を注意して聞く。授業中は日本語と中国語で説明してくれる。
- ・テープについて朗読、MP3、単語練習、文法予習
- ・英語とだいたい同じように文の構造を一つのパターンとして覚えようとしている。そこに単語をあてはめていけばいい。

楽しいとき／うれしいとき

- ・何か話せるようになったとき。・先生の話聞いて特に文法の話聞いて分かった時
- ・翻訳は好き 正しく訳すことができたらうれしく思う。
- ・テレビで自分ならったところが出てきたら嬉しい。
- ・習った文をすぐ使えたとき。
- ・おもしろい。発音（聞いて心地よい）、文化的な側面を知ることができて視野が広がる。日本語と中国語は歴史的経緯もあって、相似点がある。文字や発音など。
- ・授業中の会話（「対話」）。
- ・朗読（「です、ます」）ひらがな、カタカナ：文化に興味がある。
- ・テレビの日本語の台詞（乱暴、命令口調）が先生の日本語と違う点がおかしい。ドラマの日本語はわざとらしい作らせたもののように思った。

やめたいとき

- ・ない（5）
- ・やめたいと思ったときもあるが、振り返ってやはり成長したということ（成就感）を思い出し、また頑張る。

学習継続のための対処法

- ・復読機を使ったり、よくできる同級生に聞いたりして勉強している。

他の外国語学習との違い

- ・日本語の単語は中国語とつながりがあるが、英語は全然違う。アルファベットで書かれているから書き方も発音の仕方も違う。
- ・語彙の覚え方が違う 英語の場合は読み方通りに覚える。日本語の単語はまる暗記するしかない。
- ・英語を勉強するときはよく書くが、日本語の場合は、よく聞いたり練習したりする。
- ・日本語は最初は易しいと感じるが学ぶにつれてだんだん難しく感じるようになる 英語は逆、最初は語彙を覚えるのが大変だが、たくさん語彙を覚えておけば易くなるという気がする。
- ・暗記が有効なことは同じ。日本語は口頭練習がほとんどない。
- ・中国語と文法が全く違う。単語が覚えにくい。英語の映画はよく見るし、雑誌も見る。

英語のほうが情報が得やすい。

- ・英語と変わらない。言語構造を中心にパターンで覚える。日本語ははじめはやさしく感じるが、だんだん難しくなる。ある程度までいくとこれ以上上達するのは難しいと感じてしまう。

その他

- ・将来、日本語の教師になりたい。・通訳になりたい。
- ・（実際に日本の伝統文化に触れたことがあるか→）大学祭のとき、日本語専攻の学生が和服を着たりしていたのを見た。

6. 考 察

以上、2009年3月に行った教師および学生に対するインタビューで得た回答を示した。印象的だったのは、特に雲南省で、とにかく情報不足であるとの大学の教師も口をそろえて言っていたことである。また、生教材が日本国内で教えるときのように容易に手に入るわけでもなく、日本語会話のパートナーとなる日本人もほとんどいない。このような難しい環境の中で、日々、教師たちは努力し、学生の興味を引き出すため、さまざまな工夫をしている。

また、「英語コーナー」「日本語コーナー」の有効活用もある。これは、その言語で話すサロンのようなもので、日曜日や授業終了後に、学生たちがネイティブを囲んで、その言語を話すサロンのようなものである。場所は、公園であったり、食堂の隅であったりさまざまである。

課題は、非専攻（二外）は若い先生が経験をつむために担当するケースがほとんどであるということである。したがって、教科書に書いてあることを、何の疑問も持たずにそのまま端からまんべんなく教えることがあるという。現在、李姐莉・谷部弘子・案野香子のチームで進めているマルチメディア教材開発プロジェクトの際には、例文、画像、文化背景など、日本に行ったことのない教師や学生が生き生きとした情報として受け取れるよう工夫する必要があることが認識された。また、そうやって開発した教材を主要都市のみならず、地方の日本語教育機関に十分行きわたらせられることが理想であろう。

授業の際の使用言語であるが、中国現地では中国人教師が中国語で教えた方が効率的な場合がほとんどであろう。しかし、ノンネイティブの教師にとって本当に正しい日本語を教えられているのか、教室活動はどうすればいいのか、大変不安だという。ノンネイティブの教師が受けられる研修の情報が、地域差なく広まることを望む。

インタビューした学生たちは、「日本人」と話せる、ということで、大変喜んで協力してくれた。しかし、その中でも、日本語学習に成功している学生と、そうではない学生がいることが実感できた。インタビュアーが「希少な」日本人であることを十分認識し、この機会に自分の日本語を試してみようという態度をとったり、逆にどんどん質問してきたりするものがいた。そういう学生は成功している学習者といえるのではないだろうか。

学生の学習動機として、アニメ、ドラマがあげられ、教室でも大いに利用している姿が見てとれるが、アニメやドラマ独特の言い回しがあることに留意しなければならないこと、また、中国語の字幕がつくので、それが効果的な場合かもしれないが一方で字幕だけを見

て、聞いているつもりになっている場合があると考えられる。学生の自覚を促すよう、授業で動画を利用する場合は、日本語で理解できているかどうかの確認を教師は行う必要があろう。

中国と日本間で難しい歴史問題を抱える中で、学生が日本語を学び、日本という社会に関心を持ち、ひいては日本人という個々の「人間」に眼を向けるようになれば、学生自身の成長にもつながるのではないだろうか

【謝辞】

雲南師範大学・外国語学院・範広融氏、雲南大学・外国語学院・饒瓊珍氏、雲南民族大学・外国語学院・李蕊氏にお話を伺った。

【参考文献】

- 成同社 (2006) 「中国大陸地区における大学非専攻日本語教育の現状」『松本大学研究紀要』No. 4 (56)
- 陳俊森 (2007) 「中国の大学日本語教育の現状と改革の展望」『中国21』Vol.27 愛知大学現代中国学会
- 彭広陸 (2007) 「中国における日本語教育事情—大学日本語専攻—」

Japanese-language Education at Universities in China

— From Interviews with Chinese Learners and Teachers of Non-major Japanese in Hunan and Yunnan —

ANNO, Kyoko & YABE, Hiroko

The purpose of this interview research was to develop one aspect of Japanese-language education in Hunan and Yunnan

As a result, the following became clear: The latest information and the teaching materials for Japanese language is lacking especially in Yunnan, but the students who make the best use of their environment have become good at Japanese.

It will be necessary to develop teaching materials based on the result of these surveys in the future.